



写真提供:(財)松山市施設管理公社



写真提供:荒井事務所



# 彩の国さいたま芸術劇場 video dance 2006

ダンスやフィジカルシアターのエキサイティングな映像に出会える  
5月の2週連続ウイークエンド!

《video dance - ビデオ・ダンス》はビデオ、DVD、映画といった映像メディアを通して、ダンスやフィジカルシアター\*の映像に接し、その多様で豊かな表現世界の魅力を発見するチャンスです。

ピナ・バウシュが65歳以上の男女市民を公募して試みた「コンタクトホフ」のリハーサル風景。シルヴィ・ギエムの楽屋での表情や稽古風景を追ったドキュメンタリー。今は亡きタデウシュ・カントルが自身の演劇思想を語るインタビューや舞台。美術そして舞台と多様な顔を持ちながら「劇的狂気」の力を駆使し美の創造に挑むヤン・ファールブルの舞台とドキュメンタリー。近年ヨーロッパで注目を集めているシディ=ラルビ・チェルカウイの代表作数作品。そしてマツ・エック、イリ・キリアン、フィリップ・ドゥクフレ、ジョゼフ・ナジの舞台やインタビュー、その他にも日本未公開の気になる中堅、若手ダンサーのヨーロッパ発最新作を集めています。

一方日本からは舞踏の創始者、土方巽の作品群を挿入したドキュメンタリー映画「夏の嵐」(荒井美三雄監督)、いつまでも変わらないロックンロールなところで踊り続ける笠井勲、舞踏の名を世界に知らしめた天児牛大と山海塾。今やヨーロッパのオペラ座に振付けするなど内外で活躍する勅使川原三郎のドキュメンタリーと新作短編映画。さらには山田せつ子、伊藤キム、白井剛、近藤良平、続いて今後の活躍が期待される若手の作品まで約60映像余り、彩の国さいたま芸術劇場のオリジナルセレクションとして提案します。

ただいま鋭意セレクション中ですので以上はその一端ですが、ダンスやフィジカルシアターをもっともっと知りたいあなたは**必見**です。\*フィジカルシアターとは、ここではダンスと演劇との境界で生み出される身体表現のことを指しています。

この企画はフランス国立ボンビドー・センター(パリ)のビデオ・ダンス部門との共催で進めています。

## 彩の国さいたま芸術劇場 video dance 2006

【日時】5月12日(金)～14日(日)  
5月19日(金)～21日(日)

**Week 1**  
5月12日(金) 14:00～21:00  
5月13日(土) 13:00～21:00  
5月14日(日) 13:00～20:00

**Week 2**  
5月19日(金) 14:00～21:00  
5月20日(土) 13:00～21:00  
5月21日(日) 13:00～20:00

\*上映時間はあくまで目安です



【会場】彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

【チケット(税込)】(前売り)1日券 500円 (当日)1日券 700円

(通し券)全プログラム通し券 2,000円 \*前売・当日ともに同価格

【発売日】メンバーズ 3月18日(土) 一般 3月24日(金)

最新情報はチラシをご参照ください



★



★



★写真提供:ボンビドー・センター



© Jacques Denarnaud